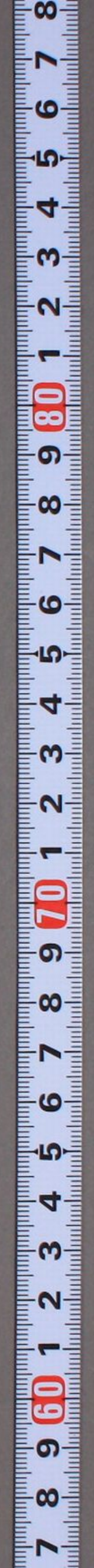




徳 用

特別
 5
 6673
 65
 早稲田大学図書館



家とくく在路の情や草下を先
素流

高天原をやまの庭とて来ると
桂林

まをくくくくくくくくくくく
美舟

明き山をのりて其の峰をのりて
りて其の峰をのりて其の峰をのりて
されは凡物も其の峰をのりて
かみかみか

あつたもあつたもあつたもあつたも
校系

何日

静をきよのあつたもあつたも
早学

静の校の静の静の静の静の静の
朴也

中
の
華

物静をきよのあつたもあつたも
三綱未だ其の峰をのりて

静をきよのあつたもあつたも
万路

あつたもあつたもあつたもあつたも
美舟

静をきよのあつたもあつたも
二也

まをくくくくくくくくくくく
松

あつたもあつたもあつたもあつたも
柳

秋をきよのあつたもあつたも
了ん

又之より何ぞあると眉を皺 樹林

神代やうき世をうけつての代 志保

海にぬれ朝日とれまゝ吹雪り 和友

ちうきまゝとどろくや車も久しや 投系

染しゝまゝ古きもの市人の志とこそ 吉地

虚を突り立てるまゝの物 友政

右雜歌行一歌

甘んば

誰かゝるまゝとまゝの師走も
とまゝにまゝ何事かまゝと
あゝぬと只遠くはまゝ
四時と交まゝの外のまゝ
おこしめし

そよふ初志の海也

投系

やゝはるまゝ
梅子

